

# 高校生のキャリア意識に関する研究

## －小学生との継続交流に基づく分析－

林 幸克  
(明治大学)

### 【要旨】

本研究では、高校生が小学生との交流活動を通して、どのようなキャリア意識を形成しているかを明らかにし、その効果的な在り方を検討した。小学生と交流した生徒は、交流していない生徒と比べて、勉強などに対する情報収集意欲や友だちとの協力や思いやりなど、良好な人間関係維持が大切であるとする意識が高いこと、課題遂行・達成意欲が高いこと等がわかった。また、交流した生徒において、女子の方が規律ある生活志向や友だちとの人間関係維持・向上意識が高いこと、2年生の方が課題遂行・達成意欲が高いこと等が示された。今後の在り方については、生徒の明確な職業意識に根差した主体性を尊重すること、「交換ノート」の活用による事前学習・事後学習の充実が求められることが挙げられた。

### 1. 問題意識

中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」(1999)において、初めてキャリア教育が取り上げられてから、その在り方について様々な議論が展開された。文部科学省「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き ー児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるためにー」(2006)の中で、「高等学校におけるキャリア教育は、生徒のキャリア発達を支援し、望ましい勤労観、職業観を育成しながら、多様な選択肢から自己の意志と責任において進路を主体的に選択することができるよう援助していくことが最大の目標となる。」ことが示された。さらに、高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議報告書「普通科におけるキャリア教育の推進」(2006)では、「普通科にあっても、生徒が進学希望であるか就職希望であるかを問わず、将来の生き方にかかわる問題として、生徒が将来への夢や希望をはぐくみ、その実現に努力する指導・援助として、キャリア教育に取り組むことが大切」であることが明示された。

キャリア教育に関する先行研究を概観すると、義務教育、特に小学校に関する論考は比較的蓄積がある。教員がキャリア教育を行う上で外部からの情報も望んでいることや、学校を挙げてのキャリア教育への指導体制・組織作りが不十分であることを指摘した研究<sup>1)</sup>、「自尊感情の進路意識への影響が見出されたことは、小学生において、自尊感情育成の働きかけがいかに重要であるかを意味するものである」ことを示した論考<sup>2)</sup>、将来の仕事選択の展望を持つために、「小学校段階から仕事との接触を可能な限り多く持ち、自分と仕事との関係を発達段階に応じて捉えていくことが重要である」としたもの<sup>3)</sup>等がそうである。

高等学校については、普通科の高校生が、学校の指導で力を入れてほしいことについて、

「就職や進学の情報充実してほしい」「学力をつけてほしい」「進路に関する相談を十分にしてほしい」が上位で、「職場での実習の機会をつくってほしい」「職場見学の機会をつくってほしい」は下位であったことを明示した研究<sup>4)</sup>、「高等学校進路指導の改善は、生徒が個性・適性を知り、将来の目標を持ち、その実現のために今何をなすべきかを主体的に考え、行動できるような指導に少しでも近づけることである。」とした論考<sup>5)</sup>、「高校における進路指導で問題なのは、まさに、いかにして彼らに計画性を伴った進路選択をさせるかである」ことを明らかにしたもの<sup>6)</sup>、「情報過多の現状において、高校生がそれらを有用な情報として活用し、主体的に進路選択することができるよう指導するためには、まず生徒の自らの進学目的を見つめさせ、指導者がそれを理解することも重要であるということ」を示唆した論考<sup>7)</sup>等があるが、いずれも進路指導に特化した研究である。その中で、その進路指導も含めて、生涯教育の視点を加味した研究も散見される。『特別活動』、『職業教育』、『生徒指導』からの教育力の回復によって、これまでの学校教育が抱えてきた課題である生徒の主体性や自己実現への意欲の低下や一面的な人間形成などにとっても有効なアイデア・資料を提供して、中等教育の全体を通じて、計画的、組織的、継続的な、とりわけ生涯教育の発想に立った進路指導の展開が実質的に可能となる」とした研究<sup>8)</sup>、「進路態度の成熟を促進する上で、生きがいをもたせる指導が重要な役割を果たす」ことを示した論考<sup>9)</sup>、「学校側は、高校生の学外活動を把握しつつ、ソーシャルネットワークの質的充実に対する適切な支援を行うべき」であるという見解を示したもの<sup>10)</sup>がそうである。

これらに示された自己決定能力育成やソーシャルネットワークの形成等は、座学で習得するものではなく、体験的に学ぶ中で培うことができるものである。すなわち、いかに効果的な体験活動を展開するかがポイントになる。そこで本研究では、その体験活動の具体的な内容として小学生との交流活動を取り上げ、その成果を検証する。

## 2. 方法

### (1) 質問紙調査

2012年8月から9月にかけて、岡山県内の高等学校2校<sup>11)</sup>を対象に、郵送法による質問紙調査を行った。2校のうち、本研究では、小学生との交流活動<sup>12)</sup>が継続的に行われている全日制普通科の高等学校を分析対象とした。全校生徒465名のうち、416名から回答を得た(回収率89.5%)。回答者の内訳は、男子140名・女子255名・男女不明21名、1年生151名・2年生140名・3年生125名である。

質問項目は、新見ら<sup>13)</sup>の作成したキャリア意識尺度を用いた。キャリア意識尺度は42項目で、「とてもそう思わない」(1点)～「とてもそう思う」(6点)の6件法で質問した。この他に、高校生になってから取り組んだことがある活動8項目(複数回答)、小学生との交流に関する7項目(2件法)等を聞いた。

### (2) 聞き取り調査

2012年9月20日に学童保育指導員1名、教員1名、高校生4名(A:3年生女子/生徒会役員・学童保育ボランティアのリーダー、B:3年生女子、C:2年生男子、D:3年生女子/生徒会役員)に対して、学童保育指導員と教員は個別、高校生は集団で、約60分間の半構造化インタビューを実施した。

内容は、学童保育指導員に対して、小学生と高校生が交流する意義や留意点、双方に与える影響、交流を円滑に進めるために必要なこと、交流のための事前指導・事後指導の在り方等を聞いた。教員に対しては、学童保育指導員に対する質問に加えて、交流活動をキャリア教育として位置づける際の課題、キャリア教育に関わる学校独自の取り組みを聞いた。高校生に対しては、活動を始めたきっかけ、活動中の苦楽、学年進行による役割の変化、活動に対する希望等を聞いた。

### 3. 結果・考察

#### (1) 高校生全体のキャリア意識

次頁の『キャリア意識』(表1)に示したように、「17.何かを決めるときには、情報は多いほうが良いと思う」が5.02点で最も高く、以下、「35.思いやりがある人には、たくさん友だちができると思う」(4.97点)、「12.やる気になったら、家のそうじや手伝いができると思う」(4.91点)、「18.学級の仕事は、みんなで協力したほうが良いと思う」(4.91点)であった。

男女では、男子で、「39.宿題や勉強は言われてからやれば良いと思う」(男子3.25点、女子2.82点)、「36.将来どんな仕事をしたいかを今から考えなくても良いと思う」(同2.88点、2.51点)等で、女子よりも得点が有意に高かった。他方、女子では、「3.友だちのよいところをもっと知りたいと思う」(同4.30点、4.89点)、「6.友だちが困ったときには、助けることができると思う」(同4.38点、4.59点)、「33.友だちに悪いことをしたら謝ることができると思う」(同4.52点、4.75点)、「12.やる気になったら、家のそうじや手伝いができると思う」(同4.76点、5.02点)等で、男子の得点よりも有意に高かった。この結果から、男子は学習や仕事に対して現実回避的な思考をする傾向が強いと思われる。女子は、友だちとの人間関係維持・向上に対する意識や自分のやる気への期待が高いことがうかがえる。

学年比較をすると、1年生の得点が2・3年生に比べて有意に低かった項目として、「8.みんなで決めた係や仕事は、きちんとやりたいと思う」(1年生4.54点、2年生4.91点、3年生5.12点)、「18.学級の仕事は、みんなで協力したほうが良いと思う」(同4.64点、4.96点、5.16点)、「23.働いている人はどのようにして、その職業についたのかを知りたいと思う」(同4.33点、4.72点、4.82点)等があった。2年生が他の2学年と比べて有意な差があった項目は、「39.宿題や勉強は言われてからやれば良いと思う」(同2.82点、3.28点、2.75点)であった。3年生が他の2学年と比べて有意な差があった項目は、「29.失敗しても、あきらめずに、うまくいくまでがんばろうと思う」(同4.03点、4.19点、4.71点)であった。この結果から、1年生は勤勉性や職業意識が低いこと、2年生は学業回避傾向の意識が強いこと、3年生は課題遂行意識が高いことが推察される。

	全体								小学生 交流群	小学生 非交流 群	t検定	小学生交流群							
	全体	男子	女子	t検定	1年生	2年生	3年生	Tukey法による多重比較				男子	女子	t検定	1年生	2年生	3年生	Tukey法による多重比較	
1.大学や専門学校ではどんな勉強するのかを知りたいと思う	4.37 (1.56)	4.24 (1.65)	4.48 (1.49)	n.s.	4.06 (1.58)	4.44 (1.52)	4.66 (1.53)	1<3**	5.00 (1.25)	4.54 (1.29)	3.74**	4.60 (1.41)	5.21 (1.10)	n.s.	4.81 (1.56)	4.79 (1.29)	5.38 (0.88)	n.s.	
2.人から頼まれたことでも、うまくできないと、やめてしまおうと思う	2.82 (1.26)	2.92 (1.20)	2.76 (1.25)	n.s.	2.74 (1.18)	2.92 (1.37)	2.21 (1.22)	n.s.	2.62 (1.21)	2.86 (1.26)	n.s.	3.00 (1.29)	2.42 (1.14)	n.s.	2.31 (1.08)	2.72 (1.36)	2.71 (1.12)	n.s.	
3.友だちのよいところをもっと知りたいと思う	4.64 (1.29)	4.30 (1.36)	4.89 (1.16)	4.55**	4.49 (1.32)	4.65 (1.31)	4.81 (1.21)	n.s.	4.90 (1.26)	4.59 (1.29)	n.s.	4.40 (1.50)	5.21 (1.01)	2.65**	4.69 (1.49)	4.90 (1.29)	5.04 (1.08)	n.s.	
4.そうじや係の仕事は自分がなくても他の人がしてくれようと思う	2.74 (1.36)	2.72 (1.29)	2.72 (1.36)	n.s.	2.70 (1.26)	2.82 (1.48)	2.70 (1.34)	n.s.	2.15 (1.01)	2.86 (1.39)	3.91**	2.23 (1.07)	2.12 (1.01)	n.s.	1.93 (0.88)	2.07 (1.07)	2.38 (1.01)	n.s.	
5.何でも最後は自分で決めたいと思う	4.07 (1.41)	4.07 (1.41)	4.08 (1.40)	n.s.	3.81 (1.44)	4.12 (1.43)	4.33 (1.33)	1<3*	4.00 (1.50)	4.08 (1.40)	n.s.	4.04 (1.46)	3.98 (1.55)	n.s.	3.44 (1.55)	3.93 (1.59)	4.46 (1.25)	n.s.	
6.友だちが困ったときには、助けられることができると思う	4.48 (1.06)	4.38 (1.06)	4.59 (1.00)	1.97*	4.36 (1.01)	4.51 (1.05)	4.57 (1.12)	n.s.	4.72 (0.90)	4.43 (1.08)	2.10*	4.68 (0.95)	4.74 (0.89)	n.s.	4.75 (1.00)	4.79 (0.83)	4.63 (0.92)	n.s.	
7.調べようと思ったら、インターネットなどを使って自分で調べることができると思う	4.74 (1.19)	4.71 (1.10)	4.76 (1.24)	n.s.	4.61 (1.29)	4.78 (1.17)	4.86 (1.08)	n.s.	4.72 (1.22)	4.75 (1.19)	n.s.	4.72 (1.21)	4.69 (1.24)	n.s.	4.81 (1.52)	4.61 (1.23)	4.79 (1.02)	n.s.	
8.みんなで大決めた係や仕事は、きちんとやりたと思う	4.84 (1.08)	4.73 (0.97)	4.94 (1.10)	1.89*	4.54 (1.06)	4.91 (1.09)	5.12 (1.00)	1<2** 1<3**	5.25 (0.92)	4.76 (1.09)	3.48**	4.92 (0.88)	5.42 (0.91)	2.20*	4.81 (1.11)	5.32 (0.98)	5.46 (0.59)	n.s.	
9.みんなと意見が違っても、自分の意見を言わなければならないと思う	3.83 (1.35)	3.84 (1.32)	3.81 (1.37)	n.s.	3.71 (1.31)	3.86 (1.43)	3.92 (1.32)	n.s.	3.75 (1.38)	3.84 (1.35)	n.s.	3.80 (1.32)	3.71 (1.44)	n.s.	3.75 (1.44)	3.61 (1.34)	3.92 (1.41)	n.s.	
10.友だちの気持ちを大切にすることができると思う	4.82 (1.02)	4.78 (1.07)	4.91 (0.94)	n.s.	4.70 (1.04)	4.87 (0.98)	4.92 (1.03)	n.s.	5.02 (0.86)	4.79 (1.04)	n.s.	4.96 (0.84)	5-7 (0.88)	n.s.	5.00 (1.16)	5.04 (0.74)	5.00 (0.80)	n.s.	
11.わからないことは、先生や友だちに聞くことができると思う	4.44 (1.22)	4.35 (1.15)	4.56 (1.19)	n.s.	4.31 (1.20)	4.39 (1.28)	4.66 (1.13)	1<3*	4.70 (1.12)	4.39 (1.23)	n.s.	4.64 (0.86)	4.77 (1.23)	n.s.	4.56 (1.26)	4.59 (1.18)	4.92 (0.93)	n.s.	
12.やる気になったら、家のそうじや手伝いができると思う	4.91 (1.12)	4.76 (1.24)	5.02 (0.98)	2.28**	4.77 (1.18)	4.94 (1.09)	5.04 (1.07)	n.s.	5.10 (0.99)	4.87 (1.14)	n.s.	4.92 (1.29)	5.21 (0.77)	n.s.	4.94 (1.00)	5.00 (1.17)	5.33 (0.70)	n.s.	
13.自分がいやなことでも、友だちにはつきりうべきだと思う	4.63 (1.14)	4.54 (1.17)	4.72 (1.09)	n.s.	4.54 (1.14)	4.75 (1.10)	4.61 (1.18)	n.s.	4.64 (1.34)	4.63 (1.10)	n.s.	4.40 (1.56)	4.81 (1.18)	n.s.	4.69 (1.25)	4.97 (1.15)	4.21 (1.53)	n.s.	
14.生徒は、将来のためにしっかりと勉強すべきだと思う	4.44 (1.16)	4.48 (1.09)	4.44 (1.19)	n.s.	4.25 (1.23)	4.45 (1.20)	4.66 (0.99)	1<3*	4.70 (1.08)	4.39 (1.17)	1.99**	4.44 (1.16)	4.81 (1.01)	n.s.	4.31 (1.40)	4.76 (0.95)	4.88 (0.95)	n.s.	
15.遊びに行く前に勉強や宿題をすませるほうがいいと思う	4.18 (1.27)	4.14 (1.14)	4.24 (1.32)	n.s.	3.98 (1.33)	4.25 (1.30)	4.36 (1.15)	1<3*	4.46 (1.13)	4.13 (1.29)	1.98*	4.33 (1.05)	4.60 (1.13)	n.s.	4.07 (1.39)	4.61 (1.07)	4.54 (1.02)	n.s.	
16.友だちのよくないところは注意すべきだと思う	4.27 (1.10)	4.36 (1.11)	4.41 (1.08)	n.s.	4.13 (1.19)	4.52 (1.03)	5.00 (1.02)	1<2** 1<3*	4.38 (1.23)	4.37 (1.08)	n.s.	4.28 (1.34)	4.50 (1.06)	n.s.	4.31 (1.20)	4.45 (1.30)	4.33 (1.20)	n.s.	
17.何かを決めるときには、情報が多いほうがいいと思う	5.02 (0.99)	5.01 (1.03)	5.06 (0.96)	n.s.	4.85 (1.05)	5.09 (0.93)	5.16 (0.97)	1<3*	5.33 (0.78)	4.96 (1.26)	2.86**	5.24 (0.97)	5.37 (0.66)	n.s.	5.56 (0.63)	5.31 (0.89)	5.21 (0.72)	n.s.	
18.学級の仕事は、みんなで協力したほうがいいと思う	4.91 (1.10)	4.86 (1.04)	4.98 (1.08)	n.s.	4.64 (1.17)	4.96 (1.12)	5.16 (0.93)	1<2*, 1<3*	5.25 (1.00)	4.84 (1.11)	2.83**	5.16 (1.14)	5.29 (0.92)	n.s.	5.13 (0.96)	5.21 (1.20)	5.38 (0.77)	n.s.	
19.自分ひとりでは決めるよりも、人に相談して決めたいと思う	4.66 (1.10)	4.66 (1.11)	4.69 (1.06)	n.s.	4.54 (1.12)	4.65 (1.16)	4.81 (0.97)	n.s.	4.83 (1.08)	4.63 (1.10)	n.s.	4.64 (1.32)	4.95 (0.93)	n.s.	5.06 (0.85)	4.59 (1.21)	4.96 (1.04)	n.s.	
20.学校で勉強していることは、将来仕事をすらすらと役に立たないと思う	3.34 (1.42)	3.53 (1.48)	3.18 (1.36)	2.37*	3.30 (1.43)	3.55 (1.48)	3.17 (1.34)	n.s.	3.06 (1.47)	3.40 (1.41)	n.s.	3.36 (1.60)	2.84 (1.36)	n.s.	2.88 (1.75)	3.41 (1.45)	2.75 (1.26)	n.s.	
21.計画や時間を決めて勉強したいと思う	3.84 (1.39)	3.83 (1.38)	3.86 (1.40)	n.s.	3.57 (1.44)	4.04 (1.28)	3.94 (1.41)	1<2*	4.04 (1.40)	3.80 (1.39)	n.s.	3.88 (1.30)	4.12 (1.47)	n.s.	3.44 (1.63)	4.38 (0.98)	4.04 (1.57)	n.s.	
22.違う学年の人とも話したいと思う	4.00 (1.43)	4.01 (1.33)	4.04 (1.48)	n.s.	3.81 (1.49)	3.99 (1.47)	4.23 (1.30)	1<3*	4.39 (1.48)	3.92 (1.41)	2.52*	4.64 (1.25)	4.21 (1.58)	n.s.	4.50 (1.46)	4.52 (1.33)	4.17 (1.69)	n.s.	
23.働いている人ほどのようにして、その職業についてたのびたいと思う	4.61 (1.27)	4.62 (1.18)	4.63 (1.28)	n.s.	4.33 (1.39)	4.72 (1.28)	4.84 (1.02)	1<2*, 1<3**	4.86 (1.13)	4.56 (1.29)	n.s.	4.48 (1.30)	5.07 (0.99)	2.12*	4.63 (1.26)	4.93 (1.03)	4.92 (1.18)	n.s.	
24.自分の未来は明るいと思う	3.78 (1.30)	3.64 (1.25)	3.89 (1.27)	n.s.	3.54 (1.32)	3.83 (1.29)	4.01 (1.26)	1<3**	3.91 (1.22)	3.75 (1.32)	n.s.	3.64 (1.19)	4.12 (1.20)	n.s.	3.50 (1.21)	3.83 (1.10)	4.29 (1.30)	n.s.	
25.すぐにできなくても、できるまでがんばろうと思う	4.33 (1.21)	4.26 (1.14)	4.40 (1.21)	n.s.	4.11 (1.21)	4.33 (1.28)	4.59 (1.10)	1<3**	4.67 (1.12)	4.26 (1.22)	2.55**	4.52 (1.01)	4.81 (1.12)	n.s.	5.00 (0.89)	4.35 (1.32)	4.83 (0.92)	n.s.	
26.自分や気持ちや考えを友だちにおかしくややく伝えることができると思う	3.65 (1.22)	3.63 (1.23)	3.70 (1.17)	n.s.	3.50 (1.16)	3.72 (1.26)	3.74 (1.25)	n.s.	3.55 (1.17)	3.67 (1.23)	n.s.	3.40 (1.19)	3.70 (1.10)	n.s.	3.44 (1.32)	3.48 (1.15)	3.71 (1.12)	n.s.	
27.情報が少ないと、正しい答えが出せないと思う	4.07 (1.17)	4.01 (1.18)	4.09 (1.14)	n.s.	3.97 (1.18)	4.10 (1.18)	4.15 (1.14)	n.s.	4.04 (1.18)	4.07 (1.17)	n.s.	3.88 (1.27)	4.09 (1.11)	n.s.	4.13 (1.41)	4.07 (1.13)	3.96 (1.12)	n.s.	
28.だらだらとテレビをみないようにしようと思う	3.49 (1.46)	3.62 (1.37)	3.46 (1.49)	n.s.	3.20 (1.46)	3.57 (1.55)	3.76 (1.32)	1<3**	3.64 (1.48)	3.46 (1.46)	n.s.	3.04 (1.31)	4.05 (1.41)	2.91**	2.75 (1.69)	3.55 (1.30)	4.33 (1.20)	1<3**	
29.失敗しても、あきらめずに、うまくいけばがんばろうと思う	4.29 (1.22)	4.31 (1.18)	4.34 (1.19)	n.s.	4.03 (1.25)	4.19 (1.27)	4.71 (1.01)	1<3** 2<3**	4.56 (1.07)	4.24 (1.24)	1.98*	4.50 (1.14)	4.63 (1.02)	n.s.	5.00 (0.76)	4.07 (1.22)	4.88 (0.88)	1>2*, 2<3*	
30.落ち込んでいても、友だちとは明るく話ができると思う	4.14 (1.32)	4.12 (1.27)	4.21 (1.28)	n.s.	3.97 (1.34)	4.18 (1.37)	4.30 (1.21)	n.s.	4.12 (1.48)	4.14 (1.28)	n.s.	3.79 (1.59)	4.37 (1.33)	n.s.	3.60 (1.50)	4.00 (1.65)	4.58 (1.14)	n.s.	
31.やる気になったら、集中して勉強することができると思う	4.57 (1.19)	4.41 (1.21)	4.69 (1.13)	2.25**	4.44 (1.24)	4.60 (1.14)	4.68 (1.16)	n.s.	4.96 (1.13)	4.49 (1.18)	3.03**	4.88 (1.01)	4.98 (1.21)	n.s.	5.13 (1.20)	4.76 (1.06)	5.08 (1.18)	n.s.	
32.友だちとけんかしても、うまく仲直りできると思う	4.21 (1.12)	4.19 (1.10)	4.30 (1.08)	n.s.	4.12 (1.11)	4.16 (1.21)	4.38 (1.02)	n.s.	4.33 (1.25)	4.19 (1.10)	n.s.	4.12 (1.33)	4.54 (1.08)	n.s.	3.88 (1.59)	4.35 (1.17)	4.63 (1.01)	n.s.	
33.友だちに悪いことをしたと思ったら謝ることができると思う	4.62 (1.13)	4.52 (1.08)	4.75 (1.08)	2.03*	4.45 (1.21)	4.72 (1.08)	4.71 (1.08)	n.s.	4.97 (1.06)	4.55 (1.13)	2.84**	4.48 (1.33)	5.28 (0.73)	3.20**	4.56 (1.55)	5.03 (0.91)	5.17 (0.76)	n.s.	
34.難しいことでも、やる気になったら、できると思う	4.41 (1.14)	4.40 (1.10)	4.47 (1.12)	n.s.	4.17 (1.22)	4.43 (1.18)	4.66 (1.02)	1<3**	4.68 (0.99)	4.35 (1.16)	2.20*	4.56 (1.19)	4.72 (0.85)	n.s.	4.63 (1.26)	4.59 (0.95)	4.83 (0.87)	n.s.	
35.思いやりがある人には、たくさん友だちができると思う	4.97 (1.14)	4.88 (1.14)	5.08 (1.09)	n.s.	4.87 (1.25)	4.95 (1.14)	5.12 (1.01)	n.s.	5.43 (0.82)	4.88 (1.18)	3.65**	5.48 (0.77)	5.38 (0.85)	n.s.	5.69 (0.60)	5.43 (0.79)	5.25 (0.94)	n.s.	
36.将来どんな仕事をしたいかを今から考えてもいいと思う	2.63 (1.37)	2.88 (1.48)	2.51 (1.28)	2.57**	2.55 (1.34)	2.80 (1.46)	2.52 (1.30)	n.s.	2.45 (1.29)	2.66 (1.39)	n.s.	2.88 (1.36)	2.23 (1.19)	2.05*	2.25 (1.48)	2.86 (1.36)	2.08 (0.93)	n.s.	
37.忘れ物をしないように前から用意するものが大切だと思う	4.69 (1.19)	4.52 (1.21)	4.83 (1.14)	2.57**	4.51 (1.25)	4.72 (1.25)	4.89 (1.03)	1<3*	4.80 (1.18)	4.67 (1.20)	n.s.	4.72 (1.06)	4.88 (1.24)	n.s.	4.44 (1.26)	4.83 (1.28)	5.00 (0.98)	n.s.	
38.学級の係や当番の仕事は、きちんとやることが大切だと思う	4.84 (1.09)	4.77 (1.03)	4.94 (1.06)	n.s.	4.68 (1.14)	4.86 (1.12)	5.06 (0.91)	1<3*	5.15 (0.99)	4.78 (1.10)	2.56**	5.12 (0.78)	5.21 (1.06)	n.s.	5.19 (0.98)	5.07 (1.10)	5.21 (0.88)	n.s.	
39.宿題や勉強は言われてからやればよいと思う	2.96 (1.35)	3.25 (1.32)	2.82 (1.33)	3.05**	2.82 (1.19)	3.28 (1.55)	2.75 (1.22)	1<2*, 2<3**	2.49 (1.28)	3.05 (1.34)	3.17**	2.88 (1.24)	2.30 (1.26)	n.s.	2.31 (1.45)	2.90 (1.42)	2.13 (0.90)	n.s.	
40.努力しない人は、仕事で失敗すると思う	4.48 (1.28)	4.49 (1.22)	4.49 (1.30)	n.s.	4.22 (1.32)	4.51 (1.38)	4.77 (1.05)	1<3**	4.62 (1.34)	4.45 (1.27)	n.s.	4.56 (1.33)	4.63 (1.36)	n.s.	4.50 (1.51)	4.66 (1.47)	4.67 (1.09)	n.s.	
41.がんばって苦手なことを少なくすることが大切だと思う	4.67 (1.15)	4.62 (1.20)	4.73 (1.09)	n.s.	4.48 (1.21)	4.67 (1.16)	4.90 (1.04)	1<3**	4.93 (1.14)	4.62 (1.15)	2.05**	4.64 (1.38)	5.07 (0.96)	n.s.	4.88 (1.31)	4.76 (1.24)	5.17 (0.87)	n.s.	
42.遊んでおもしろいと、りっぱな大人になれないと思う	3.77 (1.39)	3.81 (1.37)	3.74 (1.39)	n.s.	3.41 (1.47)	3.88 (1.36)	4.10 (1.22)	1<2*, 1<3**	4.09 (1.50)	3.71 (1.36)	2.05**	3.68 (1.63)	4.28 (1.39)	n.s.	3.38 (2.03)	4.21 (1.29			

(2) 高校生になってから取り組んだ活動

高校生になってから取り組んだ活動では、「5. 小学生との交流活動」(16.6%)が最も多く、本研究では、この「5. 小学生との交流活動」に取り組んだ69名の回答に着目する。

1. 土曜(どのう)作り	2. 公園清掃	3. 草刈り後の処理	4. 幼児との交流活動	5. 小学生との交流活動	6. ボランティアガイド	7. エコキャップ運動	8. その他
0.2	12.0	5.3	7.2	16.6	7.5	15.6	7.2

表2 高校生になってから取り組んだ活動(複数回答)(単位:%)

「5. 小学生との交流活動」に取り組んだ高校生が、交流活動を通してどのような認識を持つようになったのかに着目する。「はい」の割合をみると、「1. 小学生との交流は楽しかったですか。」(94.0%)、「7. 社会で自分の能力や個性を発揮できる場があれば関わりたいですか。」(94.0%)で9割を超える一方で、「6. 小学生のために自分にできることがわかりましたか。」(74.6%)、「5. 小学生と交流する活動は自分を見つめ直すきっかけになりましたか。」(76.1%)は比較的少なかった。この結果から、交流活動そのものの楽しさを感じ、将来的な活動意欲を高めることにはなっているものの、自分自身を見つめ直す自己省察の機会にはなっていないことがうかがえる。

1. 小学生との交流は楽しかったですか。	2. 今後も小学生と交流する活動があれば参加したいですか。	3. 小学生と交流する活動を友だちや後輩に薦めたいですか。	4. 小学生と交流する活動は自分の将来に役立つと思いますか。	5. 小学生と交流する活動は自分を見つめ直すきっかけになりましたか。	6. 小学生のために自分にできることがわかりましたか。	7. 社会で自分の能力や個性を発揮できる場があれば関わりたいですか。
94.0	85.1	85.1	88.1	76.1	74.6	94.0

表3 小学生との交流活動(「はい」の割合)(単位:%)

(3) 小学生交流群(以下、交流群)と小学生非交流群(以下、非交流群)の比較

そうした認識の交流群のキャリア意識の特徴を明確にするため、非交流群との違いを手がかりに分析を進める。なお、インタビュー記録の下線は筆者が付記したものである。

交流群の得点が有意に高かった主な項目は次の通りである。「1. 大学や専門学校ではどんな勉強するのかを知りたいと思う」(交流群5.00点、非交流群4.24点)、「17. 何かを決めるときには、情報は多いほうが良いと思う」(同5.33点、4.96点)、「8. みんなで決めた係や仕事は、きちんとやりたいと思う」(同5.25点、4.76点)、「18. 学級の仕事は、みんなで協力したほうが良いと思う」(同5.25点、4.84点)、「33. 友だちに悪いことをしたと思ったら謝ることができると思う」(同4.97点、4.55点)等であった。この結果から、交流群は、勉強などに対する情報収集意欲や友だちとの協力や思いやりなど、良好な人間関係維持が大切であるとする意識が高いことがわかる。生徒のインタビューからもその一端を推察することができる。

C 子どもたちとの関わりだとか、どういう話をしたらいいとか、どんなふうに話すかなっていうのがちょっと勉強になると思って、保護者の方とか、職員の方とかとも関わって、いろいろ子どもについて学んでいきたいと思います。

A 私は学童で感じたことを生かして、大学に進学して、やっぱり専門的なことを学んでいきたいんです。実際に実習がありますが、そういう場面では、学童で毎週参加してきた

ことが生きてくると思います。大学では実習の場面で生かして、幼稚園の先生になったら、一人一人に話をすることを学童で学んだんで、そのことを心掛けて、仕事をしたいなど思っています。

また、「25. すぐにできなくても、できるまでがんばろうと思う」(交流群 4.67 点、非交流群 4.26 点)、「29. 失敗しても、あきらめずに、うまくいくまでがんばろうと思う」(同 4.56 点、4.24 点)、「41. がんばって苦手なことを少なくすることが大切だと思う」(同 4.93 点、4.62 点)でも有意差が認められており、課題遂行・達成意欲の高さも特徴として挙げられる。

#### (4) 交流群内での比較

交流群内の違いに着目すると、男女別では、男子で「36. 将来どんな仕事をしたいかを今から考えなくてもいいと思う」(男子 2.88 点、女子 2.23 点)で得点が有意に高かった。女子では、「28. だらだらとテレビをみないようにしようと思う」(同 3.04 点、4.05 点)、「3. 友だちのよいところをもっと知りたいと思う」(同 4.40 点、5.21 点)、「33. 友だちに悪いことをしたと思ったら謝ることができると思う」(同 4.48 点、5.28 点)などがあつた。この結果から、男子では職業意識の先送り、女子では規律ある生活志向や友だちとの人間関係維持・向上意識が高いものと思われる。学年比較では、「28. だらだらとテレビをみないようにしようと思う」(1年生 2.75 点、2年生 3.55 点、3年生 4.33 点)で、3年生が1年生よりも有意に高いこと、「29. 失敗しても、あきらめずに、うまくいくまでがんばろうと思う」(同 5.00 点、4.07 点、4.88 点)で1・3年生が2年生よりも有意に得点が高かった。このことから、3年生は規律ある生活志向が強いこと、2年生は課題遂行・達成意欲が低いことがうかがえる。

#### 4. まとめにかえて

これまでみてきた質問紙調査の結果と教員・学童保育指導員・高校生を対象に行ったインタビューの記録から、今後の交流活動の在り方について検討し、まとめとする。

##### (1) 明確な職業意識に根差した主体性の尊重

高校生は小学生との交流活動の参加に関して、当初から明確な職業意識を持って臨んでいることがわかる。

B 私は、将来の夢が保育士なので、高校時代から子どもたちとの接し方を学びたいなど思って参加しました。

D 私は将来、保育士になるのが夢で、高校入った時は、そんなに強く考えてなかったのですが、学童ボランティアがあるというのを聞いて、その第一歩としてやってみようかなと思いました。

こうした意識のもとで行われる交流活動は、高校生の主体性を尊重し、育成につなげる形で展開されている。それは、生徒会主導の運営という形で具現化されている。

教員 教員が全部抱えていると、幾ら記録とかいろんなデータを残しても、絶対に廃れるんです。(中略)生徒がちゃんとやってって、しかも責任あるよってということやっていくと、部活動と一緒に、ちゃんと縦のつながりできていって、生徒だけでちゃんと動かせるようになると思うんですね。現状でも、今、A なんかは、先輩のをちゃんと引き継い

でないといけない。(中略) それもちろんと次の世代につなげていくような動きができて  
るんで、まず生徒にさせたいっていうのは、残すため。その活動を継続させていきたく  
ってのが1つと、もう1つのメリットとしては、さっき言ったように、成長に合わせて  
この活動も形を作っていきたいっていうのもあるんで、だからこそ生徒が運営してきて、  
生徒が困ってる。じゃあ、どうしたらいいかっていうのを考えさせて、その解決策もま  
ず自分らで考えて、何かを作る時に、何か困ったらこっちにいて、それを解決するっ  
て感じにしていけば、その活動というのは、ほんとに緩やかかもしれないんですけど、  
発達、発展していくんじゃないかなというのが。

教員は、生徒の活動の質を維持しながら残すために、教員ではなく、生徒が主導権を握り、生徒文化としての定着を図るように促そうとしていることがわかる。その形が、生徒会主導の運営である。また、そこには、課題解決を通した生徒の自己成長を期待していることが込められていることも読み取ることができる。

A 前期・後期制でやっているんで、その募集をかけたなり、みんなであいさつに行く曜日などを決めたり、自分が担当する週を決めたりする時に、私がリーダーとして前に出て司会をします。先生ではなくて、生徒会メンバーの私たち生徒が主体的に活動を運営します。(中略) 困ったことは、やっぱり向こうの職員の方からの要望です。(中略) それを生徒一人一人に伝えるのは難しく、みんなが集まった、前期・後期が変わる時などに伝えるようにしています。その伝達が難しいです。

B 活動している生徒に、私が児童に言われて感じたこととか、それは多分、活動している人によって違うと思うんです。だから、意見交換とか、ちょっとしてみたいなと思いま  
す。私はこう感じたけど、自分だったらどう感じるとか、それによって、その子が言っ  
たことに対して、次の児童への接し方っていうのが、また変わってくると思うんです。  
だから、何かそういう意見とか、聞いてみたいです。

生徒は、教員の意図したように、情報伝達の難しさや意見交換の重要性を実感しながら活動に取り組んでいる様子がうかがえ、主体性の涵養に資しているものと思われる。交流群・非交流群の比較からその成果の一端をうかがい知ることができる。「(3)小学生交流群と小学生非交流群の比較」で扱った項目以外でも、「14. 生徒は、将来のためにしっかりと勉強すべきだと思う」(交流群 4.70 点、非交流群 4.39 点)、「22. 違う学年の人とも話をしたいと思う」(同 4.39 点、3.92 点)等から、交流群の生徒の他者や物事に積極的に関わろうとする主体性の高さがわかる。小学生との交流活動は、学校教育の一環として行っているが、教員が過度な指導をするのではなく、生徒に委ねることで、主体性を養うことにつながっている。明確な職業意識を有している生徒の場合は特にそうである。その意味では、今回のように生徒会主導で運営する交流活動を通して、明確な職業意識に根差した主体性を涵養するということは有効な方策であると考えられる。ただ、その主体性に関して、生徒と教員で認識に齟齬があることもまた事実である。

A もう少し先生たちも来て、どういう活動をしているのかを見てみたらいいんじゃないかなと思います。先生があんまり、どういう活動をしているのかって分かってないと思う  
んです。(中略) 向こうの職員の方と先生も、もう少し意見の交換というか、そういうもの  
をしていったら、学校と向こうの方とのつながりが太くなって、もう少し何かいろ  
ろ、情報とかが交換できるんじゃないかなと思います。

教員 学校ができることはどんどん学校でやりますし、地域でできることはどんどん地域でやってほしいかなど。その一つの中で、うちとしては、学童ボランティアに生徒を派遣する。生徒もそこで成長してほしいわけ。ですから、僕らはなるべくそこには入っていかないんですね。入っていってしまうと、生徒らにとっても甘えの原因にもなりますし、地域の方も教員に頼ってしまう可能性があるんです。(中略) 向こうに育ててもらって、高校生を育てるとともに、そちらの指導員の方も育ててもらいたいという感じですかね。

生徒会主導の運営について、生徒だけではなく、教員も一緒に時間を過ごすことで、交流活動に関する理解が深まり、学童保育指導員との交流も深まるものと生徒は考えている。教員と学童保育指導員が共通理解を図ることは一貫性のある指導方針の確立につながり、生徒にとっても困惑することなく活動の集中できることになるのかもしれない。その一方で、教員は、敢えてそこに入ることを避け、生徒自身に考えさせ、また、学童保育指導員から学ぶこと、また、学童保育指導員にも生徒の教育の責任を持ってもらいたいという意図を有している。しかしながら、その教員の思いは生徒に伝わっているとは言い難く、改善の余地がある。その改善の手がかりは、事前学習・事後学習にあるのではないかと思われる。

## (2) 「交換ノート」の活用による事前学習・事後学習の充実

ここでは、後述する「交換ノート」を活用した事前学習・事後学習について検討する。

教員 事前指導としては、最初に「こんなことやりますよ」「こんなことやってますよ」というふうな簡単なガイダンスして、で、募集をかけます。(中略)「休む時には、必ず自分で直接電話しなさい」とかいうふうな注意事項を、まず打ち出して。(中略) そのあとに全員で訪問して、向こうに行つてどういうことをするのかつていう流れをまずやる。その時はいったんもう引き揚げて、で、「次からまた活動行つてくださいなね」。だから「ここまでは面倒見ますが、ここからは行つてください」とつていう感じにしようとしています。(中略) 事後の方は、多分、本人らも言うつたんですけど、正直あんまりできてない。難しいのが、ほんとはもっと頻繁にミーティングみたいにできればいいんですけど、50人つていう量ですし、その中から集まって何か話聞いても、なかなか進まないと思うんで、できれば、曜日のグループごと集まってできたらええな、つていうのはあります。

学校における事前指導は、募集後に行う活動上の注意事項等の形式的なもの全員での学童保育への訪問で、交流活動に即した具体的な指導は、生徒会が担っている。また、事後指導はほとんど行われていない。そのため、先述した生徒のコメントにもあったように生徒同士の意見交換を求める意識が表出しているものと思われる。

教員 それぞれの場所で、何ていうのか、それぞれの口で言うのが一番ええんじゃないかな、というふうなこと。だから、僕が向こうに行つて向こうで言うとか、来ていただいて言うんじゃないあんまり意味がなくて、それぞれの場所で、それぞれの口で。

学童保育指導員 高校生がボランティアをするに当たつて、生徒会代表の人が打ち合わせに来られました。(中略) 交換ノートをしっかり活用し、自分の意見を友だちの意見を互いに感じ合い、学び合つて成長してほしいです。(中略) 自分の感じたこと、反省、喜び、

次回に向けて、危険だったこと等、簡単でいいから書いてほしいです。(中略)積極的に書こうとする人は少ないですが、真剣に書き込む人も何人かはあります。やはり、学童でのボランティア、目的意識は何なのか、それに合わせた実践、思いを表現してほしいです。

事前学習・事後学習について、活動場所が学童保育であるのであるから、その現場で指導がなされることが望ましいという教員の見解が示されている。その現場での指導を考える際にポイントになるのが「交換ノート」である。「交換ノート」について、学童保育指導員は、日々の活動から得た気づきを書くことを期待していることがわかる。それに対して生徒は次のような捉え方をしている。

D 学童の活動を終えたあとに、そのノートに、今日何があつて、困ったこととかうれしかったこととか、自分が思ったことを書くんですけど、次の週に行った時に、学童の指導者の方からコメントがあるので、それを見て、こうしたらいいよとか、厳しいコメントとかもあるんで、助かります。

A その日の活動の反省だったり、うれしかったことなどを書くようにしています。(中略)それに対するアドバイスだったり、コメントが来ることがすごいうれしくて、なるべく毎日書くようにしています。

「交換ノート」は、学童保育指導員と生徒の間で交わされるものである。生徒にしてみれば、その日の活動の振り返りであり、次の活動へ向けての改善のヒントを得る場となっている。学童保育指導員からのコメントを参考にしていることからそれが推察される。また、学童保育指導員にしてみれば、高校生の考えていることを具体的に掌握することができ、生徒への言葉かけ等の参考にできるようになっている。こうした日々の「交換ノート」の記述は、高校生の自己省察を促す機能を有している。これを生徒個人のものとして自己完結させることなく、また、学童保育の中だけで完結させることなく、教員がその内容を把握して、それを踏まえて生徒に働きかけることで、有効な事前学習・事後学習になり得ると考えられる。換言すれば、「交換ノート」を通して潜在的に行われている生徒自身による自己省察を、教員を媒介にして顕在的な事前学習・事後学習にすることができるものと思われる。日時等を改めて形式的に行う事前学習・事後学習ではなく、「交換ノート」を活用した日常的な指導で教育効果を高めることが再考される必要がある。

このように、より効果的な学習にするためには、生徒の主体性を尊重した活動方法を確立すること、形式的な事前学習・事後学習から脱却して実態に即した学習を行うことが求められると考えられる。

最後に、今後の課題としては、キャリア意識形成に与える効果について、生徒の活動内容の差異に着目して検討する必要がある。今回は小学校1・2年生対象に遊びが中心の交流活動であったが、対象が5・6年生の高学年になったり、学習要素が強く、生徒の専門性を活かした活動に取り組むことになれば、生徒の学びや気づきにも変化が生じ得ると考えられる。本研究結果を踏まえて、様々なケースの事例分析・検証を蓄積していくことが求められる。また、今回は交流対象が小学校低学年ということで実施できなかったが、小学生対象の調査を行って、交流する小学生に与える影響についても考察することが重要であり、今後の課題である。

注記・引用文献

- 1) 木村祐介「小学校におけるキャリア教育に関する一考察」(『日本生涯教育学会論集』30、pp. 93-100、2009) p. 98-99
- 2) 岩崎久美子「小学生の進路意識と学業成績に及ぼす心理的要因—原因帰属と自尊感情—」(『進路指導研究』19(1)、pp. 26-34、1999) p. 33
- 3) 川端邦彦「小学校の総合的な学習の時間におけるキャリア教育の有効性に関する考察」(『学校教育研究』16、pp. 99-114、2001) p. 110
- 4) 大根田充男・望月葉子「高校生のキャリア展望に関する研究：職業選択意識と進路指導」(『宇都宮大学教育学部紀要 第1部』42(1)、pp. 121-142、1992) p. 134-135
- 5) 松村英男・古川雅文・内藤勇次「高等学校進路指導に対する関係者の態度に関する研究」(『日本進路指導学会研究紀要』15、pp. 37-44、1994) p. 44
- 6) 吉中淳「高校生の進路選択における計画性を規定する要因の分析的研究：四年制大学進学希望者を対象に」(『日本進路指導学会研究紀要』15、pp. 20-29、1994) p. 21
- 7) 八木晶子・斉藤貴浩・牟田博光「高校生の大学進学志望動機と進学情報の有用度との関連に関する分析」(『日本進路指導学会研究紀要』20(1)、pp. 1-8、2000) p. 6
- 8) 坂本昭「中等学校におけるキャリア教育の現状と課題—生涯教育体制に向けて—」(『福岡大学研究部論集 A：人文科学編』4(3)、pp. 15-44、2004) p. 25
- 9) 堀内安男・竹内登規夫・坂柳恒夫「中学生・高校生の生きがいに関する調査研究」(『日本進路指導学会研究紀要』4、pp. 16-24、1983) p. 24
- 10) 梅崎修・八幡成美・下村英雄・田澤実「ソーシャルネットワークの構築が進路意識に与える影響—「高校生のキャリア意識調査」の分析—」(『生涯学習とキャリアデザイン』7、pp. 123-134、2010) p. 133
- 11) 2校とも岡山県の高校生社会貢献活動推進事業として様々な活動に取り組んでいる。その中で、小学生との交流活動に参加している高校生を中心に調査を行った。なお、本研究で取り上げる交流活動は、放課後に行われる教育課程外の活動という位置づけである。
- 12) 学童保育を利用する小学1・2年生約30名と高校生約50名が年間を通して活動するものである。高校生は、基本的に週に1回放課後に学童保育に行き、遊びを中心に小学生と交流する。なお、前期・後期に区切って活動登録する方式を採用しており、継続する生徒もいれば、どちらかの学期のみ活動する生徒もいる。
- 13) 新見直子・前田健一「小中高校生を対象にしたキャリア意識尺度の作成」(『キャリア教育研究』27(2)、pp. 43-55、2009) p. 46